

細田裕康先生 叙勲おめでとうございます



私達の敬愛する新潟大学ならびに東京医科歯科大学名誉教授細田裕康先生（79歳）は平成19年4月29日発令の「平成19年春の叙勲」において「瑞宝中授章」を受章されました。

細田先生は昭和3年東京都浅草田中町にてお生まれになり、昭和19年海軍兵学校に入学されましたが翌年終戦により復員、その後東京医科歯科大学歯学部に入學、昭和28年歯学部一回生として同校を卒業され、東京医科歯科大学助手、講師、助教授を経て、昭和42年4月に新潟大学歯学部歯科保存学第一教室初代教授に就任されました。その間、昭和39年9月から40年9月に1964年度米国 NIH 奨学研究者としてカリフォルニア州ロマリダ大学に留学されておられます。教授に就任された当時の新潟大学歯学部は大学とは名ばかりの様相で、研究室はプレハブ、附属病院は医学部のお古の粗末な建物でした。その中で昭和44年8月には歯学部附属病院長に就任され、おそらく日本で最初の水平位診療のユニットを並べた学生診療室を作って臨床実習を始められるなど、新潟大学歯学部の立ち上げに非常に貢献をされました。また新潟大学評議員、昭和54年4月から再度歯学部附属病院長を歴任されておられます。研究の分野は、鑄造修復、アマルガム修復を始めとする歯冠修復材料や診療システムにおよび、中でも接着修復に早くから着手され多くの成果を上げられました。

昭和57年5月、ご退官された東京医科歯科大学総山孝雄教授の後任として東京医科歯科大学教授

医歯学系・准教授 子田 晃 一
(う蝕学分野)

(歯学部歯科保存学第一講座)にご就任され、新潟大学を去られましたが、そのお人柄と相まって新潟大学歯学部のみならず新潟県を中心とする地域の歯科医療の発展に寄与されたことは筆舌に尽せません。

東京医科歯科大学に移られてからも同校歯学部附属病院長、同校評議員等を複数回務められ、学外においても多くの学会の役員や文部省、厚生省の委員を務められました。特に先生の臨床実習にける思いは強く、全国国立大学歯学部附属病院長会議では常置委員会を設置され、臨床実習ならびに卒直後研修のありかたについて中心となって検討されました。また研究分野では、新潟大学時代のテーマをさらに追求され、特に接着歯科材料分野では世界の最先端を走っておられました。その業績は海外においても広く評価され、多くの留学生を指導され、学術面を通しての国際交流にも大きな足跡を残されました。

平成5年3月ご定年退官され、「去りがたきかな新潟!!」の言葉を残して去ってゆかれた新潟に再びお戻りになられたことは私ども新潟関係者にとって大変うれしいことでした。退官後は「大学に尋ねてゆくには東京医科歯科大学名誉教授じゃ行きづらいから新潟大学でも名誉教授にしてよ。」とおっしゃって新潟大学の名誉教授にもなっていました。その後も長く文部省の歯学視学委員をお務めになっておられました。

先生のご性格を端的に言えば、厳しさと包容力といえるでしょう。そしてお酒です。論文を見ていただく時は一言一句ゆるがせにせず徹底的に添削し、終わると「さあ、飲みに行こう。」、翌日は朝7時には出勤されていて「まだ、なおしてないのか。」とお叱りをうけたことが何度もありまし

た。ワープロも無い時代、一緒に飲んでいたので一となかなかつらいものがありました。学生にも厳しく、試験ではよく不合格点をつけていました。それなのに先生のお宅はいつも落第生のたまり場になっていたことを思い出します。

さる7月23日には帝国ホテルにおいて東京医科歯科大学ならびに新潟大学で先生とご縁のあった皆様による「細田裕康先生の叙勲をお祝いする会」が開催され大変盛会でした。

先生は時々大学にもおいでになり、お元気にお過ごしでいらっしゃいます。また講座の会にもお顔をお見せいただき昔の話をされたり、お小言を言われたりしておいでです。

先生、これからもご健康に留意されお酒はほど



ほどにして、ますますお元気に活躍されますよう、またこれまで以上にご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

